

しんろ

新たな復興・創生のステージへ

福島県知事

内堀 雅雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく10年の節目を迎えようとしております。この間、県民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてまいりました。

昨年は、双葉町、大熊町、富岡町の帰還困難区域の一部地域で避難指示が解除されたほか、JR常磐線の全線再開、福島ロボットテストフィールドの全面開所など、明るい話題も多くありました。

そのような中、新型コロナウイルス感染症が世界各国で急速に拡大し、私たちの生活は一変しました。

県といたしましては、引き続き、喫緊の課題である新型感染症対策はもとより、震災と原発事故からの復興・再生、令和元年東日本台風等災害からの復旧、地方創生・人口減少対策などに全力で取り組んでまいります。

まず、新型感染症対策については、ウィズコロナにおける感染拡大の防止と社会・経済の再生を両輪で進めていくとともに、感染者への差別や誹謗中傷の防止に力を尽くしてまいります。

次に、避難地域の復興・再生については、今年4月から第2期復興・創生期間がスタートします。引き続き、被災者の生活再建や生業の再生、廃炉・汚染水対策などの課題にしっかりと取り組んでまいります。

また、令和元年東日本台風等災害からの早期復旧に努めるとともに、災害を教訓に、命を守るための避難行動の促進を図るなど、災害に強い県づくりを進めてまいります。

さらに、人口減少対策については、子育て支援策等の充実や雇用の場の確保などに取り組むとともに、本県が持つ移住先としての魅力を積極的に発信するなど、「福島ならではの」地方創生を推進してまいります。

今年7月の東京オリンピック・パラリンピック大会においては、これまで国内外から頂いた多くの御支援に対する感謝の思いと、復興が進んでいる福島の姿と魅力を広く発信するとともに、感染防止対策を徹底し、選手の皆さんを始め、福島を訪れる多くの皆さんにとって安全・安心な大会となるよう準備を進めてまいります。

ウィズコロナの状況においても、常に危機感とスピード感を持ち、最大限の効果を発揮するためには何が必要なかを常に意識しながら、この難局を乗り越え、福島の新しい未来を形作るための挑戦を続けてまいります。今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。